

## 『広報たかはま』を

## 振り返る

問合せ先  
 国総合政策  
 グループ  
 ☎52-1111  
 (内線365)

### 広報紙のあゆみ

市では、『広報たかはま』を広報活動の主軸として、昭和29年以降60年以上にわたり、サイズやページ数を変化させながら発行してきました。創刊号はB5サイズ。1ページ目は、当時の深谷町長と、町議会の井野議長のおいさつ文が掲載されています。興味深いのは、井野議長の「将棋を見ても知らない人には味気ない。まちのできごととも知らずにいるのは

味気ないから、広報でまちの進み方やあり方を知ってください。」という意味合いの言葉です。まさに「まちのことは自分ごと」としていただくための創刊。『高浜町広報』をはじめ手にした方は、どんな気持ちを抱いたのでしょうか。

その後、おおむね月1回のペースで発行され、昭和46年度から月2回の発行になりました。昭和43年5月号からタイトルは『広報たかはま』になり、今に至ります。



▲昭和43年、タイトルが『広報たかはま』に。



▲昭和29年の創刊号。前年に大きな台風に見舞われたことなどが記載されています。



▲4コマ漫画『高男くんと浜子さん』を楽しみにしていた方も多いのでは。



▲昭和50年ごろの役所の窓口。左の壁に'75海洋博のポスターが。

初期の広報紙はモノクロで、ページ数も今よりも格段に少ないものでした。税や福祉、施設のことなど市からのお知らせが載っているのは同じですが「ねずみを捕まえてください」など今では考えられないような記事には当時の生活環境が偲ばれます。また「この季節の過ごし方」など生活のアドバイスや、子どもたちの作文、4コマ漫画の連載などもあり、家庭で楽しめるようにと工夫を重ねていたようですが見てとれます。

現在と同じA4サイズになったのは平成8年の1月1日号からです。平成のこの時期は、いきいき広場の開設や、かわら美術館の開館、女性文化センターや高取公民館のオープンなど、まちが大きく姿を変えていました。まだフィルムカメラを使っていた、現像するまでは皆さんにしっかり伝わるような写真が撮れているかわからず、当時の担当者はハラハラしていたようです。

A4サイズになった平成8年新年号。かわら美術館の収蔵品の浮世絵で飾りました。

